114
A4433

宮内省圖書寮

七月十三日

長官

宮用掛

李爾厚 第十四号 第十六号 書東澤成 供高

覽畢也

大正十一年四月 大農美濃部寄贈

畜地事務局

第十五号

余謹ンテ可成丈詳カニ取調ヘシ支那兵ノ別紙記書ヲ閣下ニ呈ス但シ此覚書ハ嘗テ其取調ヘノ為メ陸軍省ノ命ニテ北支那ニ赴キ当今横濱ニ帰リシ往キノ英國海軍士官ピットマン氏ヨリ聞及ヒタル所ト余カ自カラ取調ヘタル所トニ因リ之ヲ編輯シタリ而メ余カ嘗テ日本ヲ出立シテ支那ニ赴キシ時余ト同伴セシ城島氏若シ英語ヲ解シタラハ更ニ完全ノ書

閣下ニ望シ得ヘキモ同氏ハ僅カニ英語ノ片言ノミヲ知リ又余ハ甚タ少シク日本語ヲ解シ得タレハ余カ同氏ト談話セラレタルハ不分明ナル言語ニ過キス依テ余ハ右取調ヘノ為メ幾ント同氏ヲ用フルヿ能ハサリシナリ又余ハ北京到着ノ後一ケ月六百弗以上ノ給料ヲ出スニアラサレハ通辯官ヲ傭フヿ能ハス然ルニ此給料ハ過分ニシテ余之ヲ拂フ可キノ理ナシト思ヒタレハ已ムヲ得ス天津ヨリ廣東ニ一ル迄支那沿海各地ノ土音ヲ解セル余カ支那小遣ヒニ命シテ政府ノ為メ無賃ニテ取調ヘシメ且ツ右小遣ヒノ叛逆ノ罪ヲ以テ其官吏ニ捕縛懲罰セラルヽノ恐アラサル時ハ常ニ其取調ヲ命シタリ

又城島氏ハ其カノ及フ丈ハ余カ為メニ勉労シタレハ余極メテ其好意ヲ感謝シ要府ニ於テ其旨ヲ承知シ給ハヽ余カ為メニ頗ル愈快タル可シ謹言

千八百七十五年十二月
四日東京ニ於テ

チャールス、ウ、レゼンドル

蕃地事務総裁

大隈重信閣下

第十五号書翰附錄

千八百七十四年十月北京及ビ其
近傍ニ在ル定備親兵ノ報告書

親兵ノ總督長（コセンキ、イン）即チ神ノ方法ハ左ノ
如シ　神機營

第一　第七ノ皇族ニシテ恭親王ノ兄弟タル
ホー、シヨ、チエヱン、チン、ワン

第二　樞密會議ノ長（ウエン、シアン）　文祥

第三　工部尚書（チエン、ルン）　崇綸

第四　戸部代尚書ツンリー
第五　工部代尚書ウンチエン
第六　陸軍總裁シンラプー
第七　陸軍代總裁チンジユエー

陸軍制度

右「セン、チ、イン」ハ分テ十局トス即チ左ノ如シ

第一「イン、ウヲ、チン」ハ陸軍ノ璽印ヲ掌リ其人員ハ士官四名兵卒十二名ナリ

第二「ウヲン、アン、チユ」ハ書翰ノ書記ヲ掌リ其人員ハ士官十八名兵卒廿四名ナリ

第三「イン、ウヲ、チン」ハ兵事ヲ統制シ其人員ハ士官四十名兵卒六十名ナリ

第四「チヱ、ツヲチヱ」ハ陸軍ヨリ皇帝ヘノ上奏書ヲ掌リ其人員ハ士官四名兵卒六名ナリ

第五「リアン、シアン、チユ」ハ輜重ヲ給備シ其人員ハ士官六名兵卒十二名ナリ

第六「チヱ、フア、チヱ」ハ兵卒ノ俸給ヲ掌リ其人員ハ士官二名兵卒六名ナリ

第七「ホ、チュエイ、チュ」ハ兵ノ筭計ヲ掌リ其人員ハ士官四名兵卒十六名ナリ

第八「シヲ、ウン、チュ」ハ兵ノ報告ヲ受ケ其人員ハ士官四名兵卒八名ナリ

第九「チュエン、チ」ハ兵器給典ノ事ヲ掌リ其人員ハ士官十六名兵卒二十四名ナリ

第十「チュエン、ホ、チュ」ハ裝藥及ヒ彈丸給典ノ事ヲ掌リ其人員ハ士官十六名兵卒二十四名ナリ

又歩兵ハ四隊アリテ其一隊毎ニ人員八百七十五人何レモ皆三角形ノ銃槍ヲ附ケタル魯西亞製ノ口込メ銃ヲ携フ蓋シ此兵ハ其隊中ノ四百名ヨリ外國風ノ操練ヲ傳習シタリシカ其四百名ハ數年以前天津ニ赴キ其地ニ於テ英人ブラウンヨリ操練ヲ学ヒ其北京帰着ノ後更ニ他ノ兵卒ニ之ヲ傳ヘシ者ナリ

右ノ隊ハ左ノ如シ

第一「チン」但シ此隊ハ兵士八百七十五人其将ハチン、ペイ副將ハミン、フウエイナリ

第二「チエ」但シ此隊ハ兵士八百七十五人其

将ハチンリン副将ハヘシアンシユエンナリ

第三「チユエイ」但シ此隊ハ兵士八百七十五人其将ハテー、ショ副将ハウン、ユナリ

第四「チヱン」但シ此隊ハ兵士八百七十五人其将ハウヱン、シン副将ハチユン、ユナリ

右歩兵ノ軍服ハ胸部ニ白色ノ記号ヲ附ケ且ツ白色ノ縁ヲ取リタル藍色ノ短表衣ヲ着ス又此歩兵ニ属シタル者ハ砲兵一「ブリゲート」隊ニシテ其人員ハ五百名野戦砲ハ二十四門ナリ但シ其砲ハ施條砲二門ヲ除クノ外皆滑筒ノ黄銅砲ニテ象西亜製ニ係リ且ツ皆口込メニシテ緑色ニ塗リタル車臺ニ之ヲ載ス備又右大砲一門毎ニ馬二匹人数六名ヲ備ヘ弾薬車一輌毎ニ馬二匹ヲ備ヲ而メ此大砲ハ火縄ヲ以テ点火シ又此砲兵ハ毎年春秋ノ二季ニ操錬ヲ為セモ唯空砲ヲ発スルノミ

右砲兵ノ将(此隊ヲ名ケテ「チユエン」ト云フ)ハチユン、チヤンナリ

右ノ外北京内各處ニ備ヘシ騎兵隊(「フシアン」ト

名ノ二箇アリテ其一隊毎ニ人員各〻一千人アリテ其軍服ハ胸部ニ白巴ノ記号ヲ附ケシ藍色ノ短表衣ナリ但シ此騎兵ハチュン、ホウカ買ヒシ馬上銃及ヒ「シャツスポー」銃ヲ携ヘ操練ノ時ハ空銃ヲ射発ス

又北京ニ於テハ兵隊ヲ備ヘタリ

「子、ウヲ、フ」即チ弓、鎗等十八種ノ支那風ノ兵器ヲ携ヘシ若壮ノ者五百人ヨリ成レル歩兵生徒隊

「子ホ、チャン」即チ火縄銃ヲ携ヘシ騎兵五百人ノ隊但シ其将ハヘイ、メン、ヘシ、キナリ

「シ、チコ」第一隊ハ右ニ同シ

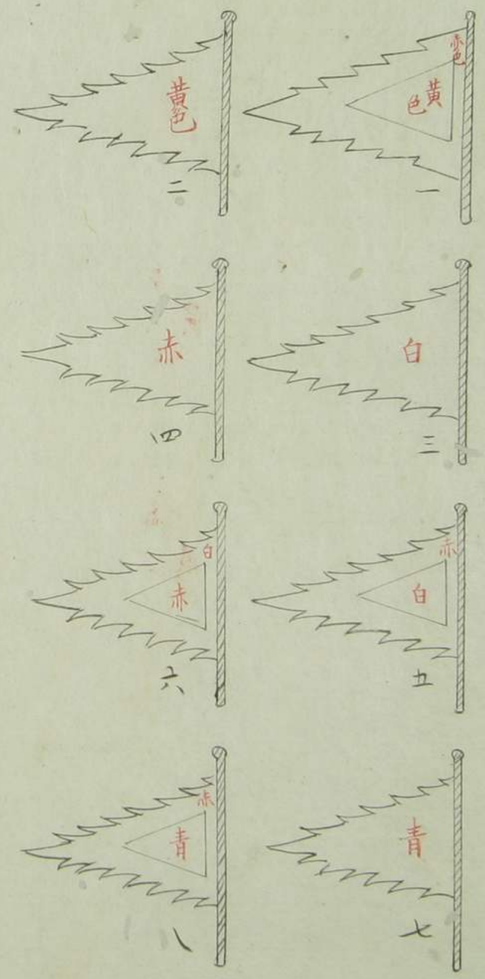
同　第二隊ハ亦右ニ同シ

ワ、モウ、フシアンチ」即チ小キ火縄銃ヲ携ヘシ歩兵五百人隊但シ其将ハイ、チュン、アナリ

「ッア、イ、ツ、フシアン、チ」即チ大ナル火縄銃ヲ携ヘシ少兵五百人ノ隊但シ二人毎ニ銃一挺ヲ備ヘタシハ其銃数都合二百五十挺アリトス

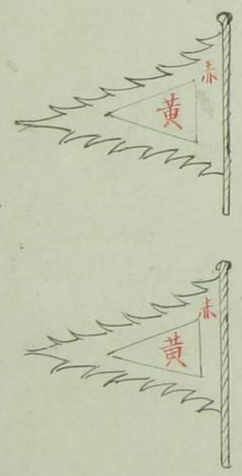
「ユ、フショー、チ」右ニ同シ

「パ」ハン」即チ刀ト籐ノ楯トヲ携ヘタル歩兵千
二百人ノ隊
「パ」ハン」即チ一「ポ」ンド」乃至四「ポ」ンス」ノ弾ヲ入
レ椅臺ヨリ射発スヘキ小キ自國製鉄砲ヲ
携ヘシ砲兵千人ノ一隊
「チ」ユ」ン、イン」即チ第七皇族ノ親兵ニシテ種々
ノ支那風ノ兵器ヲ携ヘシ歩兵二百人ノ
隊
「子」ホー即チ歩兵二千人砲兵五百人ヨリ成シ
ル隊右ノ中歩兵ハ「ニ」ヲ「ー、チヤン」即チ鳥銃
ト名クル支那ノ火縄銃ヲ携ヘ砲兵ハ「ニ」ユ
ウ、チ」ユ」イ」即チ半足ノ名クル小キ鉄砲ヲ
携ヘ而メ兵卒ノ軍服ハ白キ縁ヲ取リタル
袖ノナキ藍色ノ短表衣ヲ着シ士官ノ軍服
ハ藍色ノ上衣着ナリ
「フ」ー、チ」ユ」ン」(防護兵ノ義)即チ旗隊八箇ヨリ
成リ其一隊毎ニ将帥一名附属士官九十
九名ヲ合シテ人員千八百二十人ナリ但
シ其兵卒ハ火縄銃ヲ携フ
右八種ノ旗ハ左ノ如シ



右ノ中第一第三第五第七、左隊第二第四第六第八〃右隊ナリ

亦前ニ記スル者ノ外「チイン、ラン」ト名クル旗兵二隊アリテ其二隊ハ皇帝ノ旗ヲ携ヘ戦ノ時左右ノ先鋒ヲ為ス者ナリ但シ其二隊ハ各其人員千五百人アリテ其旗ハ圖ノ如シ



北京ノ郭外及ヒ其近傍ニ在ル兵

ユユン、ミン、ユユン

銃ト短キ刀トヲ携ヘシ騎兵一千人但シ其

将ハイインリンナリ

同　大ナル火繩銃ヲ携ヘシ歩兵千六百人但シ二人毎ニ銃一挺ヲ携ヘ其将ハトーイインナリ

ユエン、ミン、ユエンニ近キセアン、シヤンノ陣営ヲユエン、ジユエイ、インニ在ル兵即チ通常ノ銃槍ヲ附ケタル魯西亜製ノ口込メ施條銃ヲ携ヘシ外國風ニ操錬シタル歩兵八百七十五人但シ其将ハツン、リユナリ

同　忽微砲四門ヲ携ヘシ砲兵百廿五人

同　火繩銃トカトヲ携ヘタル支那騎兵五百人

ユエン、ミン、ユエンニ近キロウ、チン、チユンノ陣営ウエイ、ホ、チ、インニ在ル兵即チ魯西亜製ノ口込メ施條銃ヲ携ヘシ歩兵八百七十五人

同　魯西亜製ノ口込メ野戦砲四門ヲ携ヘシ外國風ニ操錬シタル砲兵百廿五人

ロウチン、シヤンニ在ル「ウエイホ」即チ前ニ記

セル「子ホー」ニ似タル支那ノ火繩銃ヲ携ヘ且ツ之ト同様ノ軍服ヲ着セシ歩兵二千五百人

フシヤン、シヤン、ニ在ル「テンヽジユエエイ」即チ「ニヤー、チヤン」ノ火繩銃前文ノ「子ホー」ヲ見ル可シ」ヨリ大メル

「ハ」ト名クル支那ノ火繩銃ヲ携ヘシ歩兵三千人但シ兵卒ノ軍服ハ黄色ノ縁ヲ取リタル袖ノナキ藍色ノ短表衣ニシテ士官ハ前面ノ中央ヨリ下ニ藍色ノ線ノ附キタル黄色ノ短表衣ヲ着ス

ユエエン、ミン、ユウ、ニ在ル「ホ、チユ、ユエン」即チ二人毎ニ一挺ノ「タイ、チヤン」銃大ナル火繩銃ヲ携ヘシ歩兵五千人但シ兵卒ノ軍服ハ灰色ノ縁ヲ取リタル袖ノナキ黄色ノ短表衣ニシテ士官ノ軍服ハ前面ノ中央ヨリ下ニ灰色ノ線ノ附キタル黄色ノ短表衣ナリ

北京及ビ其近傍ニ在ル常備兵ノ表

隊名	歩兵	騎兵	砲兵	外国野戦砲ノ数
「チン」	八百七十五	外国兵器ヲ用フル者　支那兵器ヲ用フル者	支那兵器外国兵器ヲ用フル者　支那兵器ヲ用フル者	二千
「チヒ」	八百七十五			
「チユエー」	八百七十五		五百	
「チヒン」	八百七十五			二十四
「チエエン」				
「ハシ」				
「ヲ、フ」	五百			
「ホ、ナヤン」				
「シチエ」一弟				
「シチエ」二弟				
「ワ、モウ、フシヤン、チ」	五百		五百	
「ツヌイ、フシヤン、チ」	五百		五百	
「ユ、フショ、チ」	五百		五百	
「パハン」	千二百			千
パハン」				
「ニユン、イン」	二百			

「ヂホー」						二千	
「ブー、ヂユエン」						一万四千五百六十	
「ヂイン、フン」						三千	
「ユエン、ミン、ユエン」ニ在ル者						千六百	
「ヂエン、ジユエイ、イン」ニ在ル者	八百七十五						
「ウエイ、ホ、ヂ、イン」ニ在ル者	八百七十五						
「ウエイホ」ニ在ル者			二千五百				
「ヂン、ジユエイ」ニ在ル者			三千				
「ホ、ヂユエン」ニ在ル者			五千				
総計	五千百五十	同	三万五千六百	二千	三千五百	千	五百
		月			五百		
		月			百廿五	百廿五	
		月					五百
		月			四	四	
							廿八

右之通覽

歩兵　四萬三百十人

騎兵　五千五百人

砲兵　二千二百五十人

総計人員　四万八千六十人

野戦砲　廿八門

右表ニ記スル数ハ其実更ニ之レヨリ少ナカル可ク蓋シ其故ハ京師内或ハ其近傍ニ在ル文那将帥等ハ其兵卒ノ月給トシテ受取リタル金高

ノ少クモ三分一ヲ私スルヲ常トシ其上申書ニハ右月給ヲ受クヘキ兵卒ノ全員ヲ書記スルト虽モ其実現ニ屯営ニ在ル者ノ数ハ右全数ノ三分二ヨリ多カラサレハナリ例ヘハ嘗テ余カ北京ヨリノ帰路ニ李鴻章ノ上申ニ拠レハ天津ニ於ケル其陣営并ニ北河及ヒ白塘河ノ岸ニ築キシ営営ニ一万八千ノ兵ヲ備ヘ其員数丈ケノ俸給ヲ受取リタレ𪜈其実僅カニ一万二千人ヲ備ヘタルヲ確知シタルカ如シ此ニ由テ之ヲ観レハ北京内或ハ其近傍ニ在ル定備兵ノ全数ハ四万八千六十人ニアラスシテ恐クハ三万二千四十人許タル可シ

右京城ノ定備兵ノ外北京ニ在ル韃靼人（満州人）ノ数八万二千餘ニシテ此兵士ハ何時ニテモ京城防禦ノ為メ招募スルヲ得可シト虽モ嘗テ一回ノ操錬ヲ為セシヿナク且ツ其携フル所ノ兵器ハ刀、弓、鎗其他手当リ次第ノ物タル可シ

又其他支那帝國ノ操錬セシ兵ハ尤ノ所々ニ在リ

北京ヲ離ルヽ二千浬許ニシテ印度暹西亜ノ

境上ウヲ、リ、ヤ、ソ、タ、ニ在ル兵

但シ人員千五百人ニシテ重モニ口込メ施

條銃ヲ携ヘシ歩兵ナリ

北京ヲ離ル、三百理許ノ処ニテ山西州ノシ

ヱ、ユエン、チエン、ニ在ル兵

但シ其人員一千人ニシテ其餘ハ右ト同シ

牛莊ノインハイニ在ル兵

但シ其人員五百人ニシテ其餘ハ右ト同シ

北京ヲ離ル、千二百哩許ノ処ニテ山西ノク

ヱイ、ヒエ、セン、ニ在ル兵

但シ其人員一千人ニシテ其餘ハ右ト同シ

右ノ外福州ノタルタル、シチートト名クル処ニ家

族トサ、ニ永住スル韃靼兵二千五百人許アリテ

此兵ハ或ハ旧キ雷管銃ヲ携フル者アリ或ハ火

繩銃ヲ携フル者アリ

又皇帝ヲ護衛スル為メ蒙古又ハ満州ヨリ来ル

ヘキ旗兵ハ弓、鎗等ヲ携ヘシ騎兵タルベシ

又廣東ニ於テハ不定兵二千五百人彭湖島ニハ

二千人、臺湾ニハ九千人アリテ其他臺湾ノ民兵

ハ三万三千許アリ

右ノ外帝國ノ各処ニ備ヘシト云ヘル兵数多アリト雖モ想フニ之ヲ招募スルモ現ニ其用ヲ為サヽル可ク且ツ此等ノ兵ヲ備ヘタリト言ヘル各省ノ総督ハ其兵ノ人員大ニ缺ケタル所以ヲ辨解スル為メ哀レナル願書ヲ出スヘキ1猶千八百七十一年中文那ト仏蘭西ト将ニ交戦セントスル勢ナリシ時イン、クヱイノ此ノ如キ願書ヲ出シタルト同シカル可シ(但シ其願書ノ寄シハ余カ第十号ノ書翰ニ添ヘテ之ヲ差出シタリ)

第十六号

余謹ンテ閣下ニ申ス余去ル七月十五日外務省ヨリ受取リシ諸贈物ノ箱ヲ嘗テ大久保氏ノ命ニ因リ其附属會計官吏ニ引渡シ唯刀剣入リノ箱ハ当今猶余カ手元ニ在リテ又小キ青銅器ハ余カ去ル九月中天津逗留ノ節当處ニ在ル魯西亞總領事兼日耳曼代領事ワーベル氏カ親切ニ日耳曼領事館ヲ余ニ貸シタル好意ニ酬ユル為メ之ヲ同氏ニ贈リタリ然ルニ右刀剣入リノ箱ハ方今余カ役所ニ在レハ閣下ノ任シ給フヘキ

官吏ニ之ヲ引渡ス可シ謹言

千八百七十四年十二月　チャールスウ、レゼンドル

四日東京ニ於テ

蕃地事務總裁

大隈重信閣下